

シリーズ 四国霊場を歩く(9)

阿波路の霊場を歩く(2)

—四国最大の都市・徳島城下町を通過して—



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長
胡 光
(えべす ひかる)

阿波路を歩く

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、江戸時代の弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに四国を北上、55日で一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、阿波路に入って5日目をむかえています。焼山寺の難所を通過し、もう一度吉野川沿いの敷地村（鴨島町）の商店五一郎宅へ泊ります。

二つの大日寺

4月10日、敷地村を発って吉野川沿いに下り、山を越え、鮎喰川を渡って、第十三番札所一の宮に到着します。江戸時代の札所には、各国の一の宮をはじめとする神社が含まれていたため、ここでは神社に参ります。ただし、神社の運営に寺があたることもあり、現在の札所・大日寺のことも記されます。一の宮と呼ばれる神社が数カ所ある国も多く、阿波国も大麻比古神社などが一の宮を称しています。

現在の大日寺の本尊は十一面観音ですが、もとは、寺名のとおり、大日如来が本尊で、江戸時代にも大日如来が安置された本堂に弘法大師も祀られていると記されています。明治維新で、一の宮から大日寺に札所が移されたため、阿波国には四番と十三番に二つの大日寺が存在することになりました。大日寺の門前には、

今も「一の宮大日寺」の石柱が立っていて、県道をはさんで向かい側に一宮神社があります。



一宮神社（左）と大日寺（右）

国分寺の屋根板

第十五番札所国分寺は、奈良時代に聖武天皇が全国に創った国分寺に由来し、江戸時代に蜂須賀家によって再興されます。青石を用いた枯山水庭園と二層屋根の本堂は国指定名勝となっている特徴的な景観を持っていますが、遍路日記に詳しい記載はありません。

平成の文化財修復の際に、瓦の下の屋根板に多くの墨書があることが分かりました。文化年間（1804-18）の年号や「為先祖代々菩提」などの願文、住所や名前が書かれた屋根板は、地元の町人・百姓や全国から来たお遍路さんによって、本堂再建のための寄付がなされたことを示しています。現在、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センターと徳島城博物館が共同で調査を行っています。

この日は、十七番札所まで五カ所を参り、島田村（徳島市）亀蔵宅に泊まりました。善根により、宿代は無料でした。



国指定名勝 阿波国分寺庭園



国分寺屋根板の調査（於 徳島城博物館）

徳島城下町を通る

翌日は、約800m進んで徳島城下町に入ります。城下町は「いたって長く、広い城下である」「京都・大坂と同じように繁華の地である」と書かれています。阿波・淡路の2カ国25万7千石を領する徳島藩は、四国にある13藩のなかで領地の石高が最も大きく、徳島は最も人口が多い城下町でした。明治22年（1889）には、人口全国10位の大都市である記録があります。

ここで、忠臣蔵の人形浄瑠璃を見物し、大坂でも公演している淡路六之丞座は、竹本政太夫、豊竹津賀太夫・橘太夫が面白いとにぎやかな様子が記されます。芝居小屋のなかでは、接待に握り飯を配る人がいたようです。

内魚町の紺屋銀兵衛宅に泊まり、ここも善根でした。

四国の総関所立江寺

翌日は、十八番恩山寺、十九番立江寺へ参ります。途中、桂川の橋を渡るとき、渡し賃を払っています。大河が多い阿波国では、渡し船賃は接待で全て無料だったと、同じ頃著された、松浦武四郎「四

国遍路道中雑誌」に紹介されていますが、橋渡しは有料だったことが分かります。

恩山寺では開帳が行われており、弘法大師像や飾り立てた細工物を見物します。

立江寺は、今でも「四国の総関所」と呼ばれていますが、江戸時代の遍路日記にも「ここは四国一の御関所で、罪深き者は札を納めることができず帰る者が多い。よって身を清め札を納める」とあります。見事な堂宇で、本尊地藏菩薩が開帳されていました。さらに、ここで足が立つようになった「いざり」（障害者）が多く、箱車が捨ててあるとも記されます。信仰心がない者の足を止め、信仰心がある者へは奇跡を起こす場所だったのです。

一方で、不義をしたお京という女性が参ったところ、鐘の緒に巻き付いてとれなくなった髪を納めた黒髪堂のことは触れられていません。

境内で、髪形を整える接待を受け、中津野村（勝浦町）の隠居善作宅に泊まります。ここも善根宿で無料でした。阿波国では、善根で宿を貸す家が多いようです。撫養の高い宿屋を除けば、一般の百姓・町人の家の宿泊12泊のうち、半分が善根宿でした。毎日のようになされる接待とともに、阿波国の特徴と言えます。



立江寺

【参考文献】

- 伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981
- 塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014
- 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020
- 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路と世界の巡礼（上）最新研究にふれる八十八話』創風社出版、2022